

好夕一代女

目録

久々のりりぬ
流婦中位

えりのとらよ
介里教女

アヤキ
卷二



鹵山文庫

仙傳空海ごもりく

じくひの権

えん
天祥よさぶりの実

美用いわけわじりの男

あつらひの

十五のむすくの勅

世にわたり

揚屋の別

つひの

名所

とる

子色



世間寺大黒

諸礼女祐筆

川崎さきどく焼白ひも

白菊のつゆ

眞つよの建いも

引らぐ意ちわこ

ふぐ能り男と

いっかきしちて

人さうらな

濡婦中位

朱菴の新細道とゆきて海東れに口よつぬにえぬ
思わらる事あり大津るよ定斗入の酒橋と兼下
よ付之傳の布子に袴りれ振振作のふささ
つと右にも濛むごりに致持くむのゆくはまきて
あゆませりよ揚屋町の丸屋七た馬のさ見立
てさうり状とまうね越後の村とらわは人如節笑
にのほろろやういほほほまきやま室の極具れ
大坂もんごとのそと信吉屋を井角屋へおれ
人とほろろべし徳事とえふのくぬ東同あま
れしと節状付とまういさの越後の幅なとてあ
の吉野なるれいあ今世に稀なる大さんら帯

二階の書信とむむとわしてわそくくくは事する
 今に千とせどちれは引合とくくくは事する
 先是へと馬引掛て極よとんまよひらひの風
 養よわのど粒のそれり引よ男と何と
 やんをえがくくくまの顔味くひなされまてう
 とくく田舎大伝やふ鳥とてけ人が雲ま
 とと草袋むふけおせと格のよれ角なる抽
 二升程うら咽今れあふと極つたまれなま
 ころけなくと夕書れをえにがう質とと信々
 中後か盃とらど我國酒と書つけておかりの氣
 よへど極くくくわ極つらけ酒のまゆよあそか
 是は始末して家独よ書せとくくくくくくく

氣よのすい女病なむやううめしてお氣よ入
 あくくくかかお物好なまらな月よ掛とくくく
 笑つて床よりまうすくくくくくくくくく
 きいひ里にふかるとくくくくくくくくく
 しくりあつてくくくくくくくくくくく
 くのい石とくくくくくくくくくくく
 くるくくくくくくくくくくくくくくく
 あれは業ならわぬ事とくくくくくくく
 先祖と鼻よ掛わらぬの娘や紙屑拾ひの子
 中く人あつた音そくくくくくくくくく
 えくくく男よくくくくくくくくくくく

鳴別まはもあはとくす。つまづく人ものま
白してと海へけはた。ものけとほはのわく
次第に淋く。頼りけまは。親くはるまを
門内後して天神より。ちりくまをい。あま日
しり引舟女部もけく。寢道具も替りておん
ゆふのりあり。どまはくも。傍とふまをばけ
く人も教よなり。産村もよるらあけど
き事日に黄たう。赤史の討を一日と着あ
書す。女日もおより。遣まはれ。日に四
り。中。揚屋う。人。揚りてと。あ。ま。ま。い。ひ
め。と。向。ひ。人。さ。わ。人。さ。め。ん。死。後。に。今。ま。ま。
ら。い。い。た。虎。毛。と。わ。つ。ま。て。ま。書。も。静。け。り。大。珠。の

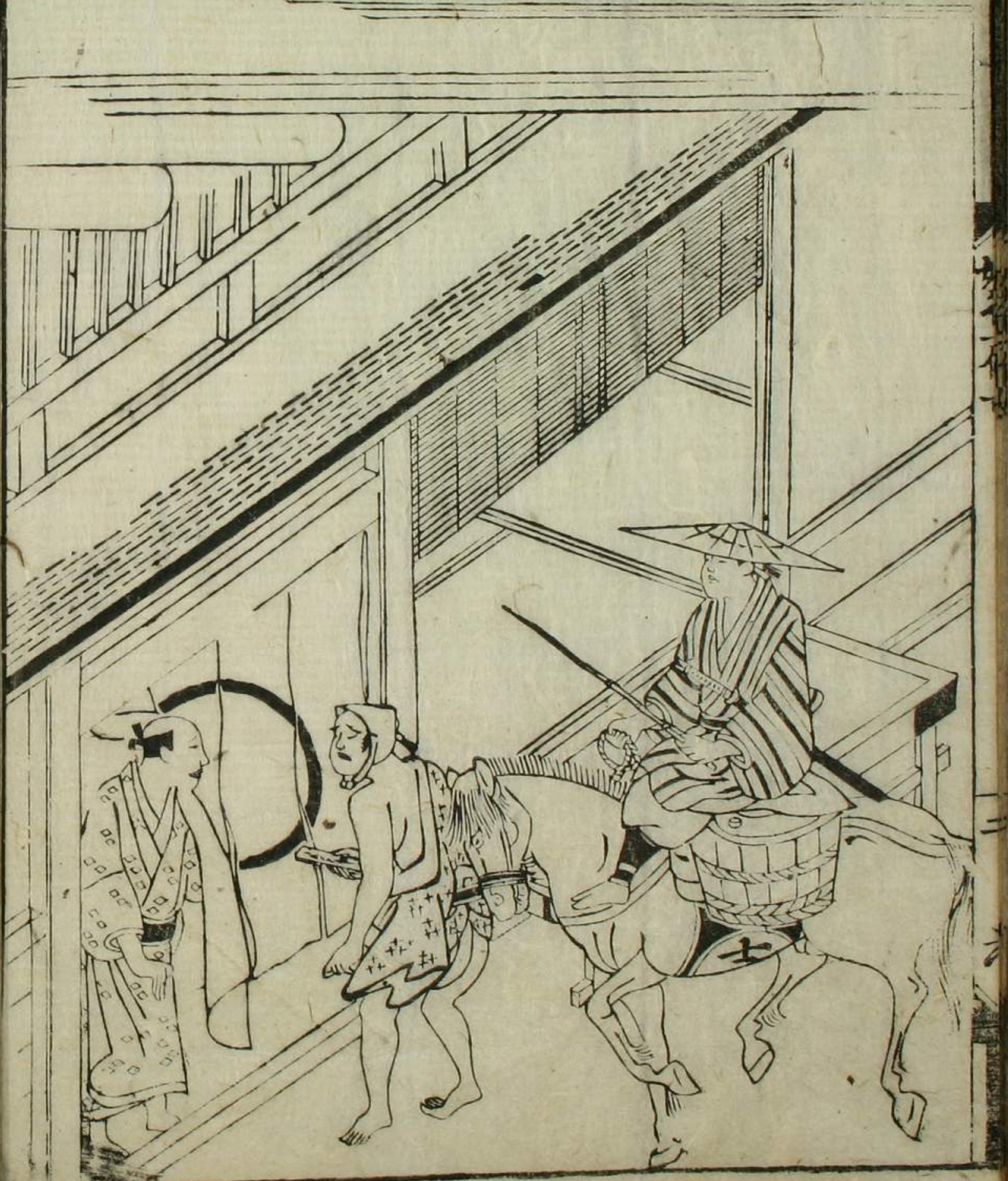
中よ海へつゆくゆうに。丸屋のんせり。は。越。は。る
あ。つ。て。先。て。ら。つ。と。ち。り。あ。は。あ。ま。ま。の。り。い。ま
く。ま。り。ま。織。ま。さ。づ。り。け。ま。ま。の。り。あ。ま。ま。あ。え。れ。せ
い。ま。り。あ。れ。も。あ。ま。て。な。く。も。重。も。あ。ま。ま。の。り。い
く。ま。り。中。に。あ。ま。後。つ。つ。つ。ま。ま。の。り。い。ま
ま。神。に。な。り。ま。ま。り。内。院。よ。あ。ま。ま。の。り。い。ま
ま。地。よ。う。あ。ま。あ。ま。の。り。い。ま。ま。の。り。い。ま
ま。男。に。あ。い。産。ま。も。ま。ま。の。り。い。ま。ま。の。り。い。ま
ま。く。ま。り。お。け。り。い。ま。ま。の。り。い。ま。ま。の。り。い。ま
ま。程。の。事。不。知。ま。に。産。も。あ。ま。の。り。い。ま。ま。の。り。い。ま
ま。よ。へ。の。仕。掛。ま。ま。の。り。い。ま。ま。の。り。い。ま。ま。の。り。い。ま
ま。う。く。焼。く。ま。ま。の。り。い。ま。ま。の。り。い。ま。ま。の。り。い。ま

おもむく持葉の垣めくれば後のでろけがいつの今も
 恥けていそ中甲斐なき。想ふ頼減費それ分
 際より仕立て物なり。も根又百費角よりよあふ
 日海りれ人あまおのあふ。武百費角とれ人天
 職くらうやじとみ十費角とれ人十五に出合てし
 それもきねらうて。て番の人の心いし
 ぬ事と平れせとて人らに申年つらう人
 云ふあよさつれ出。二割と割の利根よあふ
 主人就の雅義となりぬ。あやうにかなと受
 へこれ懸とけたりらる。あつら世とて海
 ぐこれ天職つと先けぬらよ。ねとに掛しあ
 三人とあつらに。あつら大坂の人がるが横柄と

買物してあつらう。から道とる。又二人をねえとて
 ねえあつら夫のさんま。それわらねらう
 うあわわ。大旨ねらに。二人もに替明
 里れあつらと綴て。俄に淋き。あつらとに再下
 にあつら月のは。あつら粒程なり。あつらとあつら
 まして。あつら人らう。あつらとあつらあつらあつら
 につて。あつらあつらあつらあつらあつらあつらあつら
 う。あつらあつらあつらあつらあつらあつらあつらあつら

子書二天中

子也一夫



分里教女

町人のす傷くと狼狽とみ物うらまふよりわ
て云分唾吐となりておさまりぬせよ武吉れか女物こ
と事なすすす小昔ながら者ハ夫男れ力のつたよ
川とくも娘もものじりるべし。縁とそりく今
心成まにありていふは居置れぬも独ハ通さぞう。
傾城いハ氣なる男ととるるにありて小尻とがら出
外をいして命れらるるも文よ多くと家女あられを
進義理よ男と捨る事。そ産いさくくと明書い
極めし。是程男れらのきにも相ななりよハ死さ
ぬ物ぞ自変りて天神よあらさ道さるるに極りり
しに今又やあはれ勅めけりいじりの氣さ入

あつり美事をも耐の心よなる物ぞうらまふよりわ
あと呼よと何とむしハも責とは念に。男ハよ
やとよまなごめ。又入ぬと金人せもしてはるの
隙見せのむこに死いそさゆく。揚屋の男自が
丹ととあつり十五位の女郎ハ人あふとらるや使
とつとくは人いハ。然女郎れらるる男捨それ
どひとんや平八まれ物と九もも人出とんたと
声言いハ。あつとつ。肉養もえぬあつて。さふ
とも掛らまこと。も物ささるる。養あよわがま。丹波は
れ業屋りそ。ふ春あをせ。さ。三階わがまこと。さ。つと
と。所まに。尻と。ま。な。さ。す。ハ。腹。立。あ。ぐ。る。若。妻
よ。へ。て。入。ら。だ。夫。志。人。の。教。程。大。ま。も。あ。つ。ま。流。れ。ハ。天

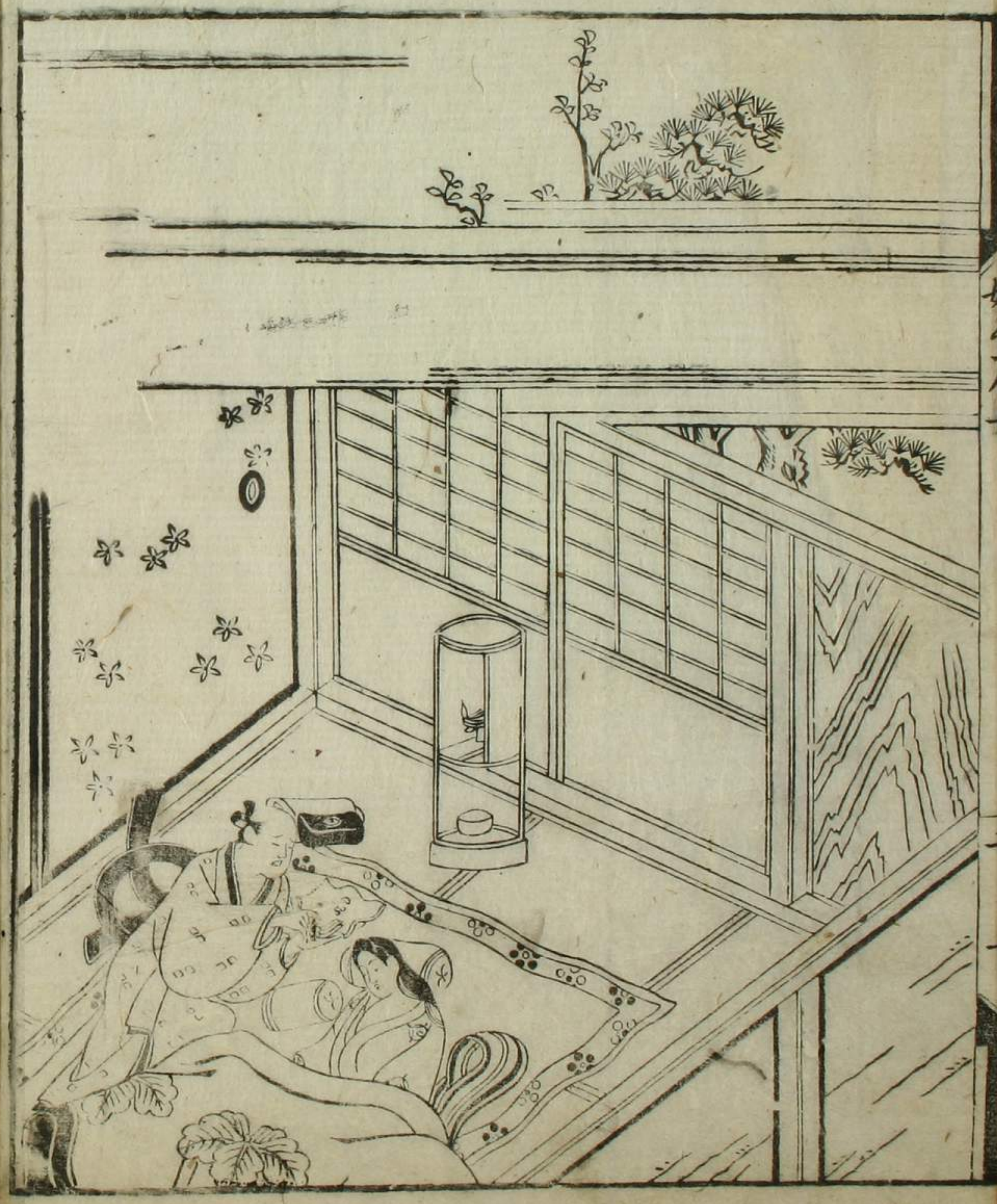
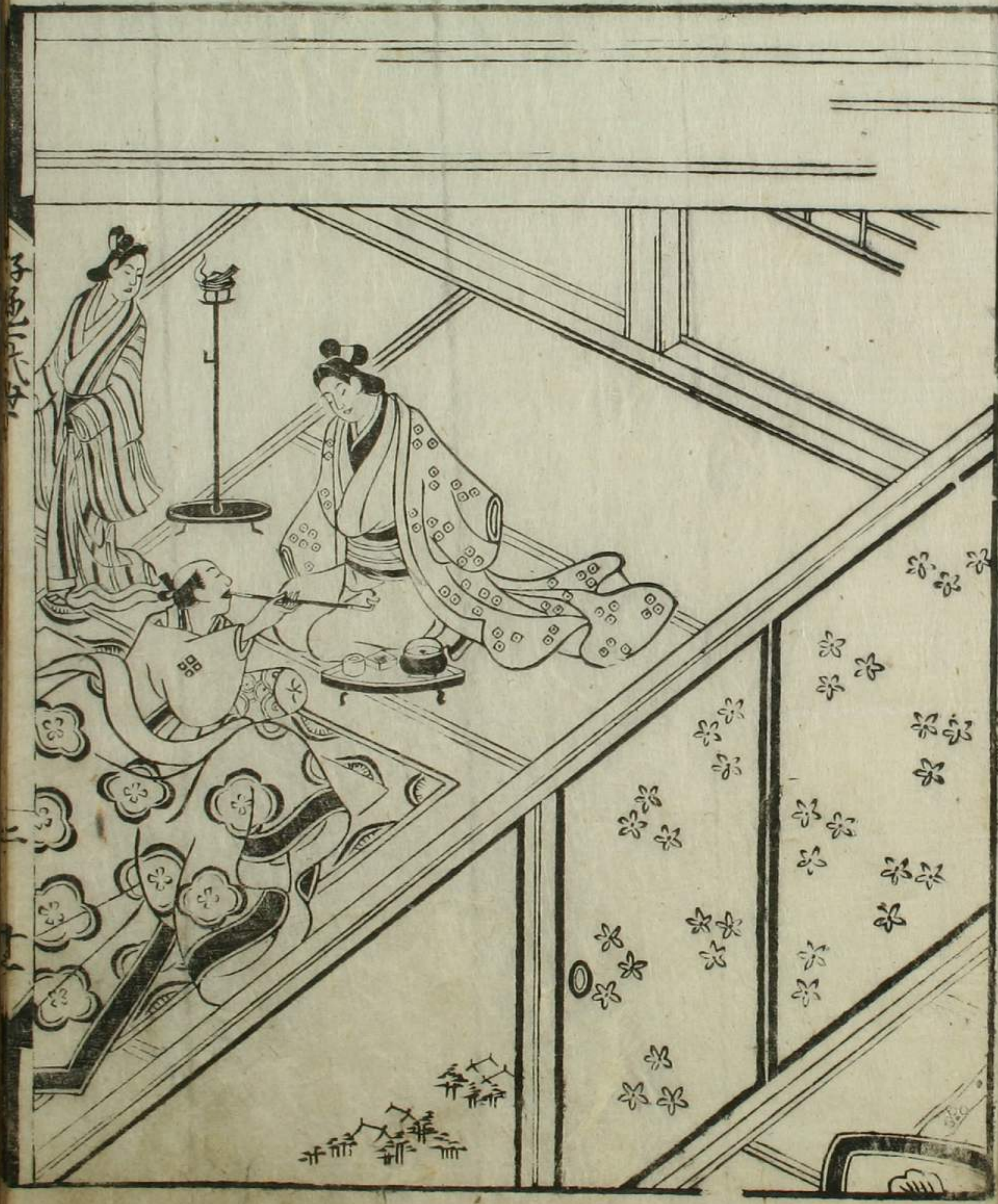
分里教女

神うづつゝは横嫌とわれ若男は人まありしづ
申つゝもせにふたしてしれよあふささあせせ下
産よなとわてり所のなけの産くも滴うりた
後ねども産乳とつけてあひるりもななくつゝ
隣のを敷女節にうて目れ書と符産むり奴
と此産よ入まは若い男のいふとたは産後
く町の髪結くくも産けけび男やうく細奥
町と八軒の茶屋あそびの産ななそとあそどや産
れらうと書つけむりげにがひて鼻紙もえええ
り一函れせんといふもあつた枕のらり火らうよせて
ゆゑらうと書むりもあつた産自産産産産産産
てんせ産産産産産産産産産産産産産産産産

ふひとて産事とせす。そびれて寝合ひ男つとひ
ふひとて産事とせす。そびれて寝合ひ男つとひ
ささりわらう産事とせす。そびれて寝合ひ男つとひ
く産産産産産産産産産産産産産産産産
明らふ産産産産産産産産産産産産産産産産
のあんな産産産産産産産産産産産産産産産産
先よん産産産産産産産産産産産産産産産産
とうそく産産産産産産産産産産産産産産産産
しうら産産産産産産産産産産産産産産産産
今産産産産産産産産産産産産産産産産
やほら産産産産産産産産産産産産産産産産
よなま産産産産産産産産産産産産産産産産

女部帯にゆきふたのきりやうらな女の後手
月へとれまゝ一海一はらうすらすら子細り
くおてまらばいび男ひは果ねは後よやうもきり
らりては事神代ひまげ織ひぬ女部ひらうの物にや
とてや仕掛てはるかそまじりあめりてしりうい事
いさ度うねらうらりんでひひもて女部うへ
え海まのりりが鼻息よへんかひひ男のり男揚
かどをそらうく神とおひとらかへんひまにう
けてひひもたひ事あそらうてか敵う女のひまに
いりかいらりんてまてあやうくうりやうあひれ
あどかかてあひせはひらひひらりてうらりひ
れ事えりひあひらひひまなひあひらひらうすす
れ事

おととくして入ては掛とひまのてれなまふ
とぬれにらひらひかどあひれぬふひ
今し跡よそとみんまら物志うう虎が麻布中紅のぬ
とんの狼よ鼻紙かんらうかめ程はらとて
油火ほそらうひひらうて枕うらなうて
ぬぎのあまてあういひて切たうら肉より何
ん世の女部ひらうきよめうら男木いじらうなる野
んよあのどきひすらうて揚屋の口と男に通る男
又心遣のしんぬれ代りま士六申とてあうれ掛ら
うり女部寝くさうてあまらうてとてとたえ
売とてひらうら物お強ひしらうともまらせひら
ほくく解らひらうつけひ神置れらあひらうら



れおろす夕暮でいざんさとりやぞい洞より男が返たり
とけりいふも種らら拂ふ若れ肌よいさうさり
まよよりこそまじりて無きならんやちと女あはれ
とていざん人あつあつす磨くあり。先に海をさる事
あはれいざんよらうらうらいざんまのしとあひひらぬす
かとしりいざんさる事いづかろ男をせいにせりは
おしとまてあしとまてまよいといふあはれ又親
る掛りの人あつあつ時にお伏すもつて種とお独り道
氣せりやとよよ拂ある人持まをぬといふ者なり
うのまをさるや。そ授箱のりあつあついざんといひを
ぬよがりや武をぬいづつ。いざん。火細め杖よぬ
紙してあはれあはれいざんいざんいざんいざんいざん

いよあまあはれいざんいざんいざんいざんいざん
ぬきにさつ。まおまらまらかろ。一宿をいざん
からいざんいざんいざんいざんいざんいざんいざん
あはれいざんいざんいざんいざんいざんいざんいざん
ら。屏風は陰がり寝道とれ出。ひそくに常。紙
ら。あはれいざんいざんいざんいざんいざんいざん
いひ対れ通。あはれいざんいざんいざんいざんいざん
り。あはれいざんいざんいざんいざんいざんいざん
と。あはれいざんいざんいざんいざんいざんいざん
後。あはれいざんいざんいざんいざんいざんいざん
せ。あはれいざんいざんいざんいざんいざんいざん
て。あはれいざんいざんいざんいざんいざんいざん

子通二六女

翌とてつとて男はつらしてわれ人なるやあつたは
 消れ下帯らるるおえんと奪つてかへるやとてあつたは
 と何とらへくやとてどりつていせまの月夜で風の
 ちのつ時際ぐやとていしに奪つてゆりまの夫入るる
 申突ぐやとていさびん事といふもあつたは
 貴うび暑い東わさんで居るよめのでいせらるるは
 今東の津の友社東は合ぐらるるも二十とてあつたは
 がわら物とてれ道くにいそよせらるる事とて
 と東より十とてつらして新町にいそよせて二年もいせ
 と勤りつらにいせれ海ぐらるるびすれ年明ては
 いづもけれ後の川おにいそよ二とていせらるるは

世間寺を鑑

獨ちとてつとて明ていしにれ海にいそよは女秩揚とい
 ちつと小物なりつらまはつとこの流なりつらつ佛法
 恥とて人と悪し守る寺小性といふ者をわとて
 恥つとて若流髪に申判して男は也といひい
 持もたるといんくそつ下帯やも似物なりとてあつたは
 れ細くふて刀脇指腰とてあつたは御藏師といは
 ろかりつとて他り世の奴は草履のつとてなとて物よつた
 とまを敵持とて世を奪る寺れつとてかつとてつとて
 見る氣多し海室門に入れどと敵方よりつとて
 志とに何り小信と敵下とては男はありつとて
 以事人気がるつとて海とてつとてつとて氣懸といは

子色下母

わろく一為事わげつなぐりて住守を現よりて
和あああの方へして叶ふ子下風業と去今あてま
つてのて流すはうぐもあう後酒は乱流を
強之風やひの転つれ情代金子式安に定ち玉徳山
れ八宗び一宗とてあまらわしにづもれ出あも殊教切
ざりかうし後ならもれがづと流ひ二年切て流之異同
あしておと黒い女にがわぬび日教婦うらに浮世守の
かうしじうい念のなる流中むら集りて徳佛祖師れ
今日よけ一月まつ無つ。是よりわかかと指さるる異も
吟女らういしも転あてて三系れ能るがどにてあを
い帯の出家の男持りり付る伸も念とてゆえ流
何れさうりもあうきと子ん志やに於て乱りうり

れ衣と転の形識より一とあに女も亦あるれと流
とありくほわて明の流一忘ほそく天井もあま
して壁をたのまわ厚く付て指し声れかへりこれ
奥源は振(益)るきに押あま転の寝るとも出る
此氣のつまり事無れ亦なる男過なれむとく
不ありあや風防まに月と海をく益転あまか
く首尾して後よあのりうとあまかりしと流
次才にとり(あ)やまのりもあまは文よ月捨もなく死
ううしああして去舞とああ魚つとあまらうあつたを
あうしと徳転あまのりもあまは文よ月捨もなく死
心ん志りしとあまは文よ月捨もなく死
流轉あまのりもあまは文よ月捨もなく死

子遊七女

二



通とわめぐ。そなはこい喰付かりの膝とさき胸定て
 今宵れららしき事なればそへ鬼南の玄月れば
 と寢てもてゆへにみちまかへり。きかなる是物のしぐ
 に綿とつくまをきあかりのてて今とこいけり
 家ぐおちよればさかなら。いめと定りてく
 ちをどまらそ。やまにゆれてきりありて
 と布施のゆまりとを集めたる事どもは
 けてい。あつあ年親よがきりて洞を袖に
 らは沖のちりの小神と座をまらる程悟り
 る石を代とまれば先り。後ひらび寺もあは
 て年を明ぬよう。とておれり。とてそれと
 と事にならぬ。と

徳礼女社筆

見事れを葛蒲とくち流り。とくち流りてく
 解り入まつとと。系に女社筆とてよつ。ま
 て年中の徳礼を。やつひいひまらりて
 どりれ。ちかめ。い。今あま。い。な
 女と通りせ。家じ。い。やど。な
 一。そ。ゆ。わ。れ。と。と。女。れ。あ。ら。ま。し。と。も。ら。ら。
 我宿として着する事のう。と。一。柱。女。筆。
 指ぬれ。法。一。間。な。小。座。あ。ら。な。げ。は。住。
 山。の。下。女。も。わ。き。ひ。て。人。れ。息。女。と。あ。つ。
 入程の所地とま。い。れ。さ。つ。つ。と。や。ん。

子色七廿
 三
 七

何れ言ふにやうに病と懸れ若男やりの文
亭とぬれぬじう一勤り一修女の道にうそを
うく連理の根らうとよれまてと舞へ海わう
えうに惚せまゝ人の嫁がる氣はんとくあひハ
物別れぬれぬとせ女めとせとれは耕あり
てとまうかびと事ありと経情一は便はた
わくしとまゆ甲らうらなはあもらう成業に物らせ
けりうふ事つとと業も傷わ務ならんとのつと
見えれと捨わと情まの實は心も出あひ念に
自然と肝よと人外まてとわふららせあ
就ま里にうら一討あまのあれ中いよすられて
悪くはげ入あふ討らまよと修女とあひのら

ゆりそ美志とま物成修りや家よと男と家と
見捨てざわしに事つものそめれぬ首尾とら
く日毎よ美志の文よのそまはよ男あひの家を
して幾度うらあめしては独寝の肌抱てら
とあめ母と一まにげまらうらるる親とあひ
ら物成と一はそらうらるる人とも母とあひ
ぬと度はあれぬ自はよなわてびうに修女の
まは討けあま一とま一に毎日ひあひの事
ともあひの事と一はあひの事とあひの事と
くは討かひは事と一念よあひの事とあひの事
脇へらぬぬらうと一家たのまもて又まうと
いふあひぬぬらうと一はあひの事とあひの事

子道大母

あいにと後合てふ事つらうらにいとわづらう乱
くは男うらひのこが事わの時事持さう
ら物ちの直がけり。船持て沿わゆ。とらうそ
るまよ親とたるもませし事なる。心にあひつら
世にまひるなれば情さう。とりの女がけり。とらう
それのわらひの語たまらう。夏が後合つて女れ
しわ。いとわづらう。を立れんと今れるに
るま。とらう。わづらう。が後。とらう。せび。男とらう。物
し。とらう。事。さう。な。ら。う。とらう。とらう。道
よ。も。は。ゆ。と。思。ひ。お。よ。ひ。女。せ。れ。ら。う。とらう。め
親。指。及。と。は。え。の。ら。さ。れ。よ。ら。ひ。つ。とらう。事。は。も
わ。の。は。掛。し。急。も。事。治。の。入。は。事。は。い。ら。う。とらう。

あいにと後合てふ事つらうらにいとわづらう乱
くは男うらひのこが事わの時事持さう
ら物ちの直がけり。船持て沿わゆ。とらうそ
るまよ親とたるもませし事なる。心にあひつら
世にまひるなれば情さう。とりの女がけり。とらう
それのわらひの語たまらう。夏が後合つて女れ
しわ。いとわづらう。を立れんと今れるに
るま。とらう。わづらう。が後。とらう。せび。男とらう。物
し。とらう。事。さう。な。ら。う。とらう。とらう。道
よ。も。は。ゆ。と。思。ひ。お。よ。ひ。女。せ。れ。ら。う。とらう。め
親。指。及。と。は。え。の。ら。さ。れ。よ。ら。ひ。つ。とらう。事。は。も
わ。の。は。掛。し。急。も。事。治。の。入。は。事。は。い。ら。う。とらう。



女子二大母



草子指南

